



GLOBAL INNOVATION CLASS

グローバルイノベーションクラス

高校クラス

GUIDE BOOK

2027



聖学院 中学校
高等学校



将来につながる 成長のストーリー

自分は何者なのか。何を学び、どこへ向かうのか。GICの3年間は、その問いに向き合い続ける時間です。プロジェクト、ゼミ、対話、発表...常に起こる挑戦とイノベーションの中で、生徒は「好き」や「違和感」を手がかりに、自分なりの進路を見つけ出していきます。卒業生の声を通して、生徒はGICでどのように成長するのか、その軌跡をご覧ください。



A.O.さん
2024年度卒業
進学先:
立教大学
現代心理学部 映像身体学科

対話を通して 次のステージへと進めた

私は小さい頃から映画が好きでした。中学時代、思春期の心がぐちゃぐちゃになっていた時期に、そばで支えてくれたのも映画でした。物語や映像に触れることで自分の気持ちを整理し、前を向くことができた経験は、今でもはっきりと覚えています。

GICに進んだのは、GICの先輩たちが生き生きした表情で授業を受けていたこと、中学の時コロナと重なり、アクティブなことができなかった中で刺激がほしかったからです。

GICで特に印象に残っているのは、哲学メディア芸術ゼミでの先生との対話です。答えを与えられるのではなく、自分で問いを立て、対話を重ねながら考えを深めていく。その経験の中で、映画の研究と心理の研究を結びつけて学びたいという思いが明確になっていきました。

現在は大学で、人・身体・映像・心を通して「人間とは何か」を探究しています。さまざまな「好き」を突き詰める人たちに囲まれた環境は、自分にとって居心地が良く、日々刺激に満ちています。

GICで学んだ中でも、「対話する」という姿勢は今の自分の核になっています。中学までは自分から話すのが得意ではありませんでしたが、話すことが好きな人、聞くことが好きな人がいるクラスの中で、自分の知らない一面を友だちが引き出してくれました。その積み重ねは、今の大学での学びにも確実に繋がっています。加えて、情熱が強く伝わってくる先生ばかりで、とにかく楽しかったです。

このクラスで過ごした3年間は、私にとってかけがえのない時間でした。最も成長できた、人生の大きなターニングポイントです。

A.O.さんの成長の軌跡

- 2022 生き生きとしている先輩の姿を見てGICへ進学
- 哲学メディア芸術ゼミで自分で問いを立て、対話を重ねながら考えを深めていく経験をする
- 元々好きな映画と心理を結びつけた研究という自分の進路が明確になる
- 2025 大学進学
好きなことを突き詰める人たちに囲まれ刺激に満ちた日々を送る



R.T.さん
2025年度卒業
進学先:
University of Kentuckyなど
6大学に合格

R.T.さんの成長の軌跡

- 2023 海外の大学に行くためにGICへ進学
- プロジェクトで外国人の言語支援ゲームを作り言葉の面白さに触れる
- プレゼンテーションの機会も多く考える力と話す力が実感できるほど伸びる
- 2026 将来翻訳や通訳を目指し、海外の大学で言語学を学ぶ

言葉で世界や社会と繋がれる その力を高校生のうちから実感できた

私は小さい頃から、日本語と英語の両方で育ってきました。海外の大学に進学したいという思いも早くからあり、高校では英語をしっかりと学び、その準備ができる環境に身を置きたいと考えていました。海外大学への進学実績や学びの環境を見て、GICならその目標に近づけると感じ、進学を決めました。

実際に入ってみると、想像以上に英語のレベルが高く、最初は驚きましたが、この環境で3年間学べるのが楽しみになりました。親からも「とても良い環境だね」と言われ、満足しています。

GICで特に印象に残っているのは、ゼミで取り組んだプロジェクトです。日本に住む外国人の方々を言語面で支援する活動として、「優しい日本語」を使ったすごろく型のボードゲームを制作しました。「優しい日本語」とは、災害時などにも使われる、短く分かりやすい表現を用いた日本語のことです。その考え方を取り入れ、マスごとに質問を置き、自然な会話が生まれる仕組みにしました。実際にイベントで使ってみるととても好評で、日本語を通して多くの人とつながれることを実感しました。この経験から、人との交流がより好きになり、言語学系に進みたいと思うようになりました。

高校のうちから、やりたいことにこれだけ時間を費やせる環境は本当に貴重です。この高校だったからこそ、言語の世界に出会えました。現在はアメリカの大学への進学が決まり、将来はスポーツ選手を支える翻訳や通訳の仕事に携わりたいと考えています。GICには心から感謝しています。



K.N.さん
2023年度卒業
進学先:
国際基督教大学
教養学部 アーツ・サイエンス学科

SDGsの実現不確実性を考え続けた結果 社会システム論への興味につながった

私がGICに進学したのは、GICの一期生として新設の案内が届いたことがきっかけでした。中学時代は医学部を目指し、いわゆる一般入試の勉強に力を注いでいましたが、周囲にはプロジェクト活動に注力する友だちが増え、「自分も社会で活躍したい」と考えるようになりました。先生の「やりたいことができる方に行けばいい」という後押しもあり、GICを選びました。

GICでの3年間は、自分と向き合い続けた時間でした。自分とは何者なのか、その先にどんな社会があるのか、人生と社会の接続地点はどこにあるのかを考え続けました。プロジェクトの授業で最初に選んだテーマはSDGsです。中学の「思考カラボ」でSDGsに触れる機会が多かった一方、中学生の自分には大きすぎて手触りがなく、「これはきっと偶像で、洗脳されているだけではないか。正体を暴いてやろう」と考えていたのがきっかけです。

調べるほどに「なぜ達成できないのか」を論理的に解き明かしたくなり、やがて社会システム論へと関心が移っていきました。多くの高校ではSDGsをアクションとして捉えがちですが、私は理論として分解し、学術の視点から理解し直すことに面白さを感じました。理論で掘り下げるからこそ、アクションに取り組む人と対話したときにインスピレーションが生まれ、学び合う化学反応が起きやすい。その実感が、探究を前に進める力になりました。毎週、先生との壁打ちを重ねながら自分と向き合った経験が、大学での学びのモチベーションにつながっています。

K.N.さんの成長の軌跡

- 中学 「思考カラボ」でSDGsに触れ、その実態を明確にしたくなる
- 2021 周りの友だちの影響でGICに進学
- プロジェクトの授業でSDGsを理論として捉える研究を推進
- 2024 社会システム論に目覚め国際基督教大学に進学

GLOBAL INNOVATION CLASS

「ものづくり」「ことづくり」を通して
世界に貢献できる人を育てるクラス

本校では、これまで探究型教育を、授業・宿泊行事・海外研修等の中に数多く取り入れてまいりました。それをさらに推し進め、生徒が自らの問いに基づいて学び、自由な発想でアウトプットできるクラスを設置しました。そのため、広い視野と生徒個人の内外でのイノベーションを重視しています。通常の教科の他に「LiberalArts」「Immersion」「STEAM」「Project」の4つの独自教科を設置し、教科横断で授業を行っています。また社会課題やSDGsを自分ごととして理解し、社会に貢献できる人財の育成を目指しています。これは本校の教育理念「Only One for Others」を真に具現化するクラスです。
※聖学院中高は基本的には中高一貫校ですが、GICは、内部進学生と高校入試で入学した生徒の両方で構成されています。

●2026年度 高校1年生 GIC の時間割例

	月	火	水	木	金	土
1	英語 コミュニケーション	英語 コミュニケーション	言語文化	英語 コミュニケーション	保健	STEAM 美術
2	歴史総合	英語論理表現	数学I	英語論理表現	言語文化	
3	数学I	物理基礎	聖書	数学A	数学I	Project
4	体育	体育	英語 コミュニケーション		物理基礎	
5	STEAM 理科	Immersion I 公共	歴史総合	Liberal Arts	STEAM 情報	
6			LHR			
7			Immersion Competency			

※独自教科以外の教科
英語／数学／国語／地理歴史／公民／理科／体育／聖書
※教科外の活動
ソーシャルデザインキャンプ／沖縄平和学習／記念祭／課外活動など

Immersion

This program integrates specialized subjects such as Public Studies, Home Economics, and Well-being with English as the medium of instruction. Beyond mere language learning, students use English as a tool to explore SDGs and global issues. Through discussions, collaborative projects, and presentations supported by native teachers, students develop the ability to express their unique perspectives on a global stage.



自分の価値観に
イノベーションを起こす
Immersion

自分のテーマを見つけ、
身につけた 力を実践する
Project

教科を掛け合わせ、
理論と感性を身につける
STEAM

他教科 の土台
考え方を学ぶ
Liberal Arts

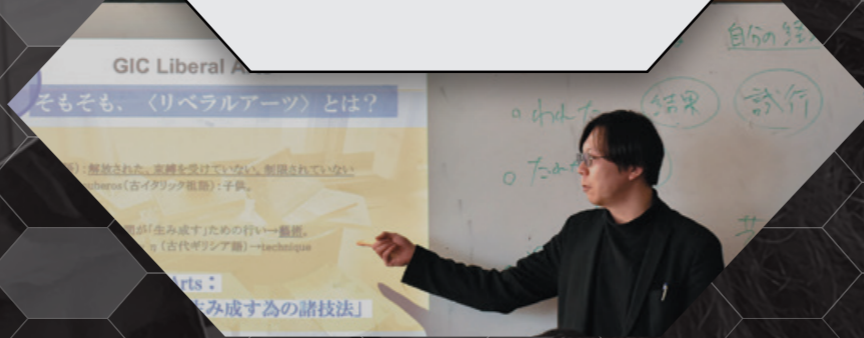
Project

As the pinnacle of the GIC experience, students select specialized seminars (zemi) based on their own interests—ranging from social entrepreneurship and environmental issues to philosophy and media. This student-led course follows a rigorous process of questioning, exploration, and creative output, empowering students to develop real-world solutions and create new social value.



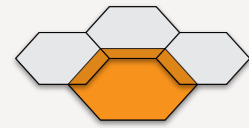
Liberal Arts

A three-year curriculum designed to cultivate multi-faceted perspectives through various thought experiments. Students progress from visualizing the systems behind global problems to analyzing complex social structures from diverse stakeholder viewpoints. The program culminates in high school year 3 with an inquiry thesis, where students articulate their own vision and how they choose to engage with the world.



STEAM

A fusion of advanced technology and artistic expression that encourages students to give form to their inner senses. Utilizing cutting-edge tools such as laser cutters, 3D printers, and MaeBooks, students engage in "Sensory Stretching" to verbalize their perceptions and collaborate on complex projects like 3D space art to manifest their unique worldviews.



LIBERAL ARTS

他教科の土台
考え方を学ぶ

様々な思考実験を通して、世界の見方を変える「視点」について学びます。
その「視点」を土台として、他の独自科目が創造的に展開されます。

世界に横たわる問題の システムを描く (高1)

自分の文脈とは異なる世界に出会う。見えな
い部分に動くシステムを描き、アプローチを
考える。高1では「視点を変える」PBLを行
います。例えば「ジェンダー不平等を解消す
る案を考えよ」というテーマでは、ドキュメン
タリーを見たあと「ジェンダー」「ノンバイナ
リ」といった概念について、資料を探索し
自ら学びます。因果ループ図を描き出し、解
決策を動画で表現します。



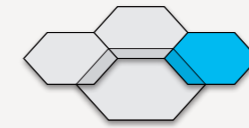
より大きな構造を描き、 当事者の視点で問う (高2)

ある問題のシステム同士を繋げ、通時的・共
時的な大構造を描く。その中に生きる当事者
性の視点で問う。高2で目指すのは「内側」
からのアプローチです。例えば「デザインは
人々にどう影響するか?」というPBLでは、
身近なデザインを探索し、それを成立させる
社会システムを学術的手法で分析します。そ
の上で「学校のあたらしい公共空間をデザイ
ンする」作品を作ります。



世界にどう関わるかを 描き出す (高3)

高3では、これまでのGIC・聖学院高校3年間
の探究すべてを材料に、「自分は、どう在る
のか」を描きます。自らの目指す世界のヴィ
ジョンや携わり方、それに向けた研究計画と
いった「在り方」を描く志望理由書。これまで
の探究に学問的な視座を設定しリサーチを
深める探究論文。2つの集大成を、生徒同士
や担当者、OBやプロジェクト関係者との対
話を重ねて執筆します。



STEAM

理論と感性を
身につける

課題解決に必要な理論と感性を「ものづくり系」「データサイエンス系」を通じて学び、
価値創造までのスキルセットを身につけます。

1年次

ものづくり系

美術・理科・情報

2年次

データサイエンス系

数学・理科・情報

1年次

ものづくり系

画材、色、光、音、空間など
様々な作る体験を通じた学び

- 授業テーマ
- ・観察 to 想像
- ・卵テンペラ絵の具
- ・色のかんかくストレッチ
- ・身の回りのものに才能を与える
- ・切り絵アート
- ・ボックスアート
- ・音のかんかくストレッチ
- ・日常の音でサウンドを作ろう (Ableton)
- ・かおりのかんかくストレッチ
- ・光の対話型鑑賞 (ILLUMME)
- ・かたちのかんかくストレッチ
- ・SFプロトタイプ
- ・五感を使った空間デザイン



五感を使った空間デザイン

高校1年生のSTEAMの授業ではさまざまなアプローチで五感を刺激
する授業を行なっています。「観察 to 想像」では、身近な植物をじっくり
観察し、その形や特徴から自由に想像を膨らませて新たな物語や名
前を創造する体験型プログラムを行い、「光と色の三原色」では、光と
画材の混色を通して色とは何か?について学びます。他にも「感覚ス
トレッチ」「光の対話型鑑賞」などを行い、それらの集大成となる「五感
を使った空間デザイン」の作品制作を行います。デザインは技術だけでは
なく、自身の感性や葛藤、そしてその場で感じた違和感すらも含めて、
「今、この瞬間の自分」と向き合う営みでもあります。自分の中のもやも
やを客観的に捉えて、論理と感性を育成し、新たな価値を創造するこ
とが、STEAMで大切にしている取り組みです。

2年次

データサイエンス系

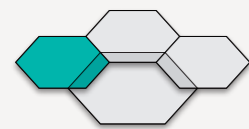
理科、数学、情報を通して、
科学的手法とデータ分析を身につける学び

- 授業テーマ
- ・科学的思考法と科学研究の作法を学ぶ
- ・化学実験を通してデータの記録とまとめ方を学ぶ
- ・生成AIのしくみや留意点について開発者の視点から学ぶ
- ・プロンプトエンジニアリングスキルを高めて生成AIを使いこなす
- ・さまざまな「エネルギー」について学際的に考える
- ・太陽光発電実験を通して
エネルギー生産・消費について多角的に考察する
- ・Net Zero Energy 実現のための方策を考察する
- ・ロボット制作を通して工学やプログラミングについて学ぶ
- ・地域課題をデータで可視化し、解決策を考える
- ・年取データをもとに代表値を学び、分析・考察する
- ・回帰分析を使って未来予測に挑戦する
- ・相関関係を見つけて社会問題の背景を探る
- ・統計的手法で防災やリスクをデータ分析する



データサイエンス

新学習指導要領の内容に加え、IoT社会におけるデータサイエンスや
今後活用が当たり前である生成AIなどの分野も実践しています。これ
らの学びが原体験となりスキル習得や論文作成へ発展し、毎年数多く
の外部コンテストにも挑戦しています。その成果として、統計データ分
析コンペティション2022「審査員奨励賞」、地方創生*政策アイデア
コンテスト2022において「東北経済産業局局長賞」、2024マイナビ
キャリア甲子園「Innovation部門優勝」、ロボッチャ®ジャパンカップ
2024「優勝」にもつながりました。学年の始めはスプレッドシート上の
大量の数字に諦めモードであった生徒たちが最後には「こんなに本気
になったのは初めて!」と目を輝かせながら取り組んでいました。



IMMERSION

イノベーションを
起こす

「公共」「家庭科」「保健」をSDGsの視点を取り入れつつ英語で学びます。
ディスカッション、アクティビティ、プロジェクト、発表を重視し、それにより生徒中心の学びを形成します。

英語で社会科 (公共) を学ぶ

社会科の教員とネイティブ教員が担当し、
SDGsを英語で学びます。授業では英語を公
用語としない国々も英語メディアを持つに
着目し、様々な国の視点から国際紛
争についてリサーチして解決策を提案しま
す。また、サステナビリティについての授業
では、サステナブルな街をデザインしてプレ
ゼンしたりするなど、英語でのインプット・ア
ウトプットを重視します。さらに、様々なゲスト
講師を招いたワークショップを行います。英
語でのリサーチやゲストの授業を通じて、社
会課題について自分なりのユニークな視点
を獲得することを目指します。



英語で家庭科を学ぶ

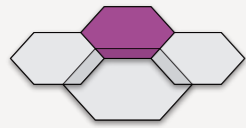
「世界のどこへ行っても生活できる力を身に
つける」を合言葉に、様々な国の衣食住に関
わる文化をリサーチします。そのリサーチに
基づき、持続可能な生活や環境について、自
分たちの考えを英語でアウトプットします。
「食を通して海外の国・地域や異文化を知
る」「食と環境や健康の関係を考える」と
いった、グローバルな視点を養います。加え
て、世界各地のコミュニティや家庭のあり方、
フェアトレードや世界で生きていくための生
活経済について学んでいきます。



英語で保健を学ぶ

ネイティブ教員と保健体育科教諭のチーム
ティーチングによる「All English」の保健の
授業。「Lifeskills」「sports」「gender」
「Health&Body」を基本テーマに、日本の
教科書の枠から飛び出して「世界中の誰も
が幸せに生きるためには」という問いに立ち
向かいます。ペアワークや定期的なグループ
プレゼンテーションを通して、「アウトプットこ
そ最大の学び」を実践しています。また、ドイ
ツ発祥のライフキネティックというエクササ
イズメソッドを導入して、脳も体もシャープに
研ぎ澄まされる授業です。





PROJECT

身につけた力を
実践する

国際系・社会系・環境系などの中から、自分の興味関心に従いゼミを選び、テーマを設定して研究します。
問いから探究、アウトプットまで生徒中心に行われる GIC の集大成です。

●現在進行中のプロジェクト

※以下のプロジェクトは常設ではありません。生徒の成長により目的を果たし、終了するものもあります。

宗教・文化

●目標:聖書の思考方法を探究することで「神を仰ぎ人に仕う」「Only One for Others」を体現する聖人を目指す。

【内容】キリスト教精神や宗教的な理念によって運営されている企業や団体の活動を研究・調査し、理論と実践について学ぶ。「自分とは何か」という永遠の問いに挑む。聖書の文化を理解し、現代社会への適用や融合を考え、文化的な軋轢に対して行動する。

貧困 vs. 起業

●目標:自分の限界を知り、一方で自分の限界の裾野を広げる小さな成功体験を積み上げ、創造社会を生きていく人を目指す。

【内容】まず国内で、企業に必要な知識と経験を積み、資金を集め、商品をつくり、販売ルートを開く。将来的にはタイでも起業する。そして事業をタイの人たちに引き継いでもらう。これが現実の貧困問題に立ち向かうことに繋がるかどうか検証する。

生活環境

●目標:生活・社会・環境課題を発見でき、私たちができる課題解決アクションや啓蒙活動を考案・実践・研究し、循環・共生社会実現を目指す人を目指す。

【内容】生活に課題を抱える高齢者・子育て世代・外国人などの地域住民の生活がより豊かで幸せになるために、また持続可能な社会に向けた資源活用や環境保全のための生活を送るために、私たちができる課題解決アクション啓蒙活動を考案し、実践・研究する。

哲学・メディア・芸術

●目標:自己の内発的動機や、今ある世界への違和感から問いを「哲学」し、探究し、自己の外へ開く手段である「メディア」を求め、世界にまだない何かを創り出す「芸術」をする。

【内容】世界を知り、自己の一人称視点、自身の位置、文脈を俯瞰し、相対化する。そのうえで、自分自身として問う。その問いを自身の研究や活動、対話によって広げ、深める。それを表現するためのメディアを探し、表現や創作を試みる。そうして当事者として「在り方」を表現することで、生きる世界の構造変革を目指す。


新ゼミ

●目標:自由闊達にして愉快なる価値創造を目指す。

【内容】テクノロジーによって加速度的に変化していく現代。誰もがあらゆるものをデザインできる環境。その中で、「暫定的な正解」を模索し、実験や挑戦を経て、失敗から学ぶ姿勢を育む。



独自科目の融合例 (NHさんの事例)

STEAM
「香りの感覚ストレッチ」
様々な香りを嗅いで言語化する




+

Project
「貧困vs.起業」ゼミ
生徒自身の問い「緑茶の消費を拡大する課題」に取り組む

緑茶アロマの商品開発



5年間の米国生活を経て帰国後、自国文化への関心が薄い同級生の姿に衝撃を受ける。以降、緑茶離れの現状に対し茶葉販売を試みるが断念。しかしSTEAMの「香りの感覚ストレッチ」を体験し、香りの可能性に着目。今では緑茶の香りのディフューザー「てらすaroma茶」の製造販売を通じて、緑茶文化の新たなニーズ創出を目指して活動中。

「QWSチャレンジ」に採択

渋谷のQWSでは「QWSチャレンジ」という「未知の価値に挑戦するプロジェクト」を推進するプログラムがあります。公募制で、採択されたチームは、QWS内のプロジェクトスペースを無料で利用できます。GIC生も2022年から応募しており様々な活動が採択されています。2025年度からはQWSのコーポレート会員になりました。

【採択された活動例】

- ・地域資源の価値を最大化するために、コミュニティと人材はどのように連携できるか?
- ・デザインが顧客の性格を理解し、今の自分とは違う別の性格への変身を目指すためにはどうしたら中高生の物語を未来の価値として紡いでいけるか?
- ・思春期の概念を崩す親子のコミュニケーションとは?
- ・サブカルチャーを通して、言葉にできない感情を言葉にするためにはどうしたら良いのか?
- ・衰退する日本文化に新たなニーズを確立させることはできるのか?
- ・江戸東京野菜は東京の新しいグルメブランドになるのか?
- ・意識高い系を誇れる社会をつくるには?

詳細はこちらから



GICの進路実例

●国内

大学名	専攻	関連するGICの教育
慶應義塾大学	総合政策学部	● Liberal Arts ● Project
慶應義塾大学	環境情報学部	● Liberal Arts ● STEAM ● Project
慶應義塾大学	総合政策学部	● Liberal Arts ● Project
慶應義塾大学	総合政策学部	● Liberal Arts ● Project
慶應義塾大学	環境情報学部	● Liberal Arts ● Project
慶應義塾大学	環境情報学部	● Liberal Arts ● Project
慶應義塾大学	環境情報学部	● Liberal Arts ● Project
慶應義塾大学	法学部	● Liberal Arts ● Project
国際基督教大学	教養学部	● Liberal Arts ● Immersion ● Project
国際基督教大学	教養学部	● Liberal Arts ● Immersion ● Project
国際基督教大学	教養学部	● Liberal Arts ● Project
順天堂大学	スポーツ健康科学部	● Liberal Arts ● Project
成城大学	社会イノベーション学部	● Liberal Arts ● Project
東京都市大学	理工学部	● STEAM ● Project
東京都立大学	都市環境学部	● Liberal Arts ● STEAM ● Project
東京農業大学	国際食糧情報学部	● Liberal Arts ● STEAM ● Project
日本大学	生産工学部	● Liberal Arts ● STEAM ● Project
日本大学	理工学部	● Liberal Arts ● STEAM ● Project
法政大学	キャリアデザイン学部	● Liberal Arts ● Project
武蔵野美術大学	造形構想学部	● STEAM ● Project
武蔵野美術大学	造形構想学部	● STEAM ● Project
武蔵野美術大学	造形構想学部	● STEAM ● Project
武蔵野美術大学	造形構想学部	● STEAM ● Project
武蔵野美術大学	造形構想学部	● Liberal Arts ● STEAM ● Project
名城大学	国際学部	● Liberal Arts ● Immersion ● Project
明治学院大学	国際学部	● Liberal Arts ● Project
立教大学	環境学部	● Liberal Arts ● Immersion ● Project
立教大学	現代心理学部	● Liberal Arts ● STEAM ● Project
立教大学	社会学部	
立教大学	文学部	● Liberal Arts ● Project
立教大学	文学部	● Liberal Arts ● Project
立教大学	現代心理学部	● Liberal Arts ● Project
立命館大学	文学部	● Liberal Arts ● Project
立命館大学	文学部	● Liberal Arts ● Project
立命館大学	産業社会学部	● Liberal Arts ● Project
立命館アジア太平洋大学	太平洋学部	● Liberal Arts ● Project
立命館アジア太平洋大学	国際経営学部	● Liberal Arts ● Immersion ● Project
早稲田大学	国際教養学部	● Liberal Arts ● Project
早稲田大学	社会科学部	● Liberal Arts ● Immersion ● Project

●海外

大学名	専攻	関連するGICの教育
State University of New York, Cortland		● Liberal Arts ● Immersion ● Project
Lancaster Bible College		● Liberal Arts ● Immersion ● Project
Asia Pacific University of Technology & Innovation(Malaysia)		● Liberal Arts ● Immersion ● Project
Temple University		● Liberal Arts ● Project
Thompson Rivers University	Business Administration	● Liberal Arts ● Immersion ● Project
Boston University		● Liberal Arts ● Immersion ● Project
Oregon State University		● Liberal Arts ● STEAM ● Immersion ● Project
国立台湾大学		● Liberal Arts ● STEAM ● Project

[高等学校]帰国生入試 募集要項

	A方式 英語圏の現地校で学習された方向け	B方式 日本人学校で学習された方向け
募集人員	5名	
試験日	2027年 1月22日(金)	
出願期間	2027年 1月15日(金) 9:00 → 1月20日(水) 16:00	
合格判定	Global Innovation Class	
試験科目	英語(英検2級~準1級程度)	英語(英検3級~準2級程度)・思考力
面接	英語・日本語	日本語
合格発表	HP 当日 20:00~	
入学金支払期限	2027年 2月13日(土) 12:00 (公立高校受験者を除く)	
時間配分	受付~8:40	
	1時間目 英語 8:50~9:50 (60分)	1時間目 英語 8:50~9:50 (60分)
	2時間目 英語面接 10:05~ (20分程度)	2時間目 思考力 10:05~11:35 (90分)
	日本語面接 (10分程度)	3時間目 日本語面接 11:50~ (20分程度)

●出願方法

インターネット出願

※公立高校受験者で入学手続き延納を希望される方は、本校所定の「入学手続き延納願」を提出の上、出願してください。

●出願資格

①2027年3月に中学校卒業(卒業見込)または同等の学力を有する生徒。

②原則として海外在住期間が1年以上、帰国後3年以内。(現海外在住者を含む。)

※上記に準ずる海外在住経験等の条件を配慮いたします。事前にご相談ください。

③本校の教育理念に賛同する者。

●受験料 24,000円

●必要な書類

提出書類	①調査書 a. 日本人学校及び国内の公私立学校在籍者は公立高校用のものを使用 b. 海外の現地校及びインターナショナルスクールの在籍者は在籍校からの成績レポートを提出 ②海外在留証明書(保護者勤務先発行のもの)
提出期限	2027年1月20日(水) 必着
提出方法	以下①②のいずれかを選択 ①簡易書留 ②メール(アドレス shiken@seigakuin.ed.jp) ②の場合は件名に【出願者氏名】【受験番号】を明記の上、添付して送信

●窓口問い合わせ時間

月~土 9:00~16:00(日曜・祝日 その他学校の定める休校日を除く。)

[高等学校]一般入試 推薦入試 募集要項

	推薦入試	一般入試
募集人員	10名	5名(併願優遇措置若干名)
試験日	2027年 1月22日(金)	2027年 2月11日(木・祝)
出願期間	2027年 1月16日(土) 9:00 → 1月20日(水) 16:00	2027年 1月25日(月) 9:00 → 2月7日(日) 16:00
合格判定	Global Innovation Class	
試験科目	適性検査(2科)・面接 適性検査(英語・思考力)／面接 ※英検3級~準2級程度	英語・思考力・面接 ※英検3級~準2級程度
合格発表	HP 2027年 1月23日(土) 12:00~	HP 当日 20:00~
入学金支払期限	1月25日(月) 23:59	2月13日(土) 12:00 (公立高校受験者を除く)
時間配分	受付~8:40	
	1時間目 適性(英語) (60分)	1時間目 英語 (60分)
	2時間目 適性(思考力) (90分)	2時間目 思考力 (90分)
	3時間目 面接 (20分程度)	3時間目 面接 (20分程度)

[推薦入試]

●出願方法

インターネット出願

●出願基準

①2027年3月に中学校卒業見込の生徒。

②本校の教育理念に賛同する者。

③内申点の合計が3教科(英数国)で**11以上、かつ5教科全てにおいて2以下がないこと。**

④2学期制の場合は後期中間まで、3学期制の場合は第2学期までの成績で上記の要件を満たしていること。

⑤英検準2級・英検準2級プラスは+1点、英検2級は+2点、英検準1級以上は+3点の加点を行う。(TOEFL等のテストも加点しますのでご相談ください。)

⑥推薦入試希望者は、2026年12月15日(火)以降に学校間による「入試相談」を要する。

●受験料 25,000円

●必要な書類

提出書類	調査書(公立高校出願用)
提出期限	2027年1月20日(水) 必着
提出方法	簡易書留

●窓口問い合わせ時間

月~土 9:00~16:00(日曜・祝日 その他学校の定める休校日を除く。)

[一般入試]

●出願方法

インターネット出願

※公立高校受験者で入学手続き延期を希望される方は、本校所定の「入学手続き延納願」を提出の上、出願してください。

●出願基準

①2027年3月に中学校卒業見込の生徒。

②本校の教育理念に賛同する者。

●併願優遇措置希望の方

①内申点の合計が3教科(英数国)で**12以上、または5教科で20以上かつ2以下がないこと。**

②2学期制の場合は後期中間まで、3学期制の場合は第2学期までの成績で上記の要件を満たしていること。

③英検準2級・英検準2級プラスは+1点、英検2級は+2点、英検準1級以上は+3点の加点を行う。(TOEFL等のテストも加点しますのでご相談ください。)

④併願優遇措置希望者は、2026年12月15日(火)以降に学校間による「入試相談」を要する。

●受験料 25,000円

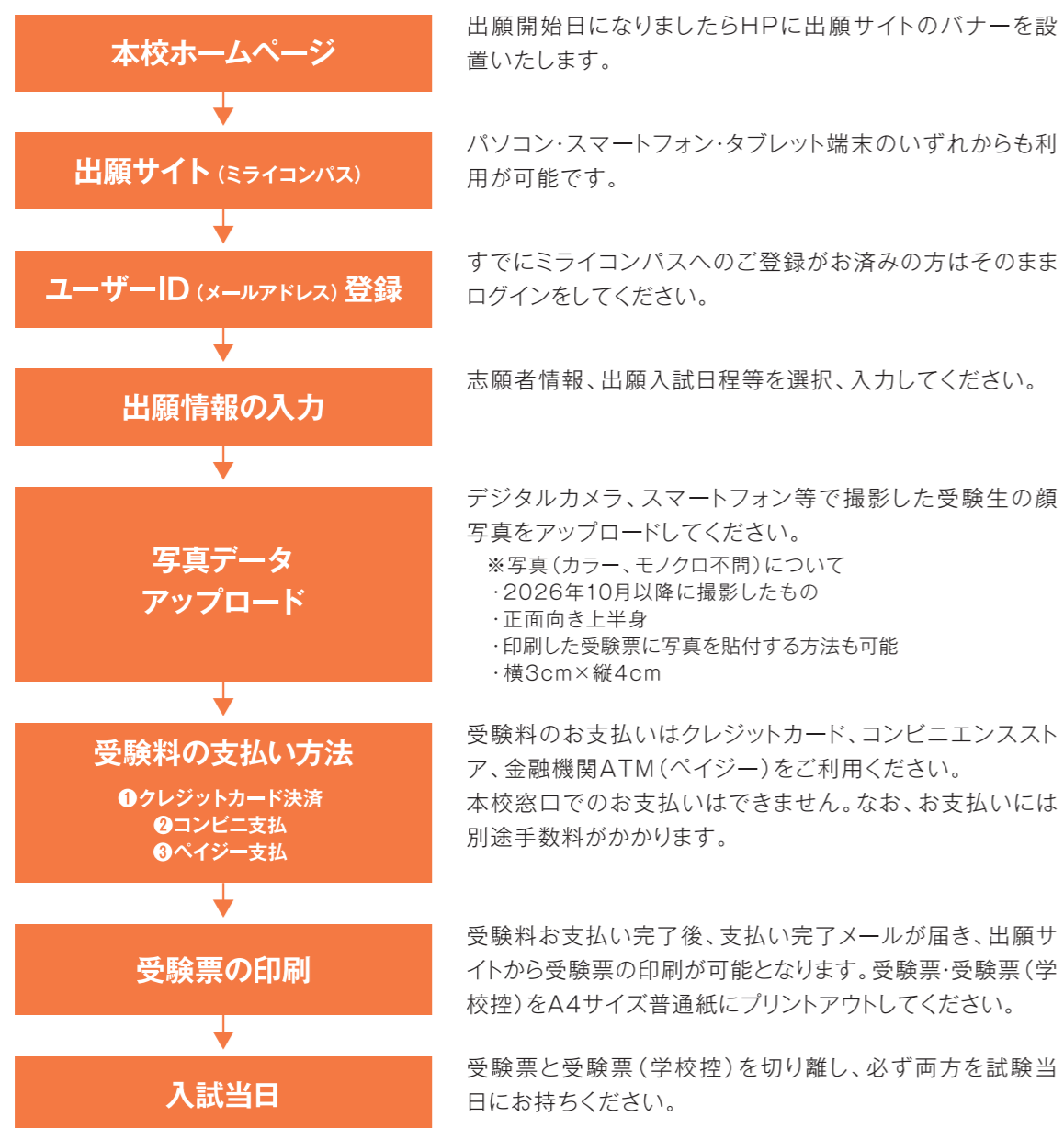
●必要な書類

提出書類	調査書(公立高校出願用)
提出期限	2027年2月6日(土) 必着
提出方法	簡易書留

インターネット出願について

- 本校窓口や郵送による出願は行っておりません。
- 期間中は平日・土日・祝日24時間手続きが可能です。
- 各種クレジットカード・コンビニエンスストア・ペイジーでのお支払いが選べます。
- 受験料お支払い後の出願内容の訂正、取り消し、返金は一切できませんのでご注意ください。**

出願手続きの方法



左記QRコードのサイトから詳細な手順確認ができます。
<https://www.mirai-compass.jp.net/nygk/>

試験当日

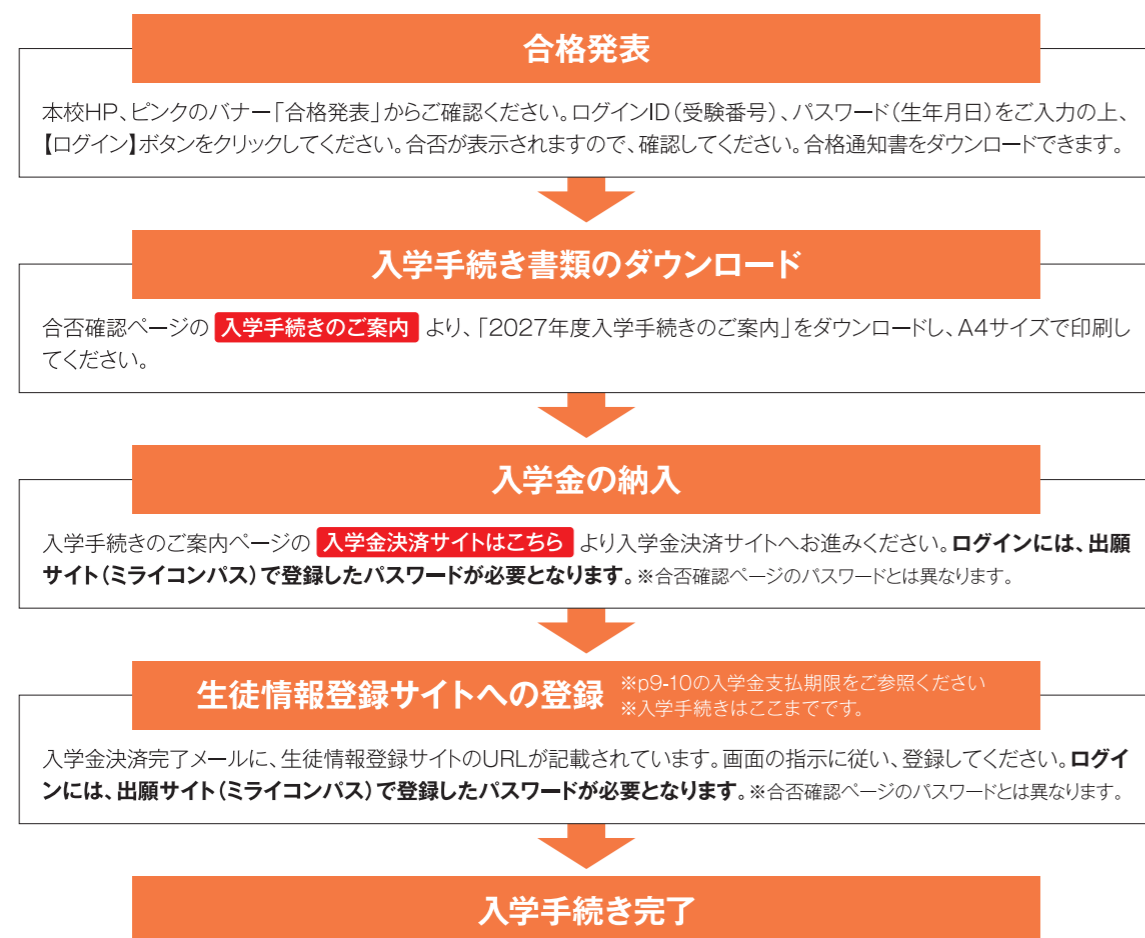
持ち物
<input type="checkbox"/> 受験票
<input type="checkbox"/> 受験票(学校控)
<input type="checkbox"/> 筆記用具
<input type="checkbox"/> うわばき
<input type="checkbox"/> 靴袋
受験上の注意
<ul style="list-style-type: none"> ●受験生はアナウンスの指示に従い、試験会場へ移動してください。 ●試験開始より15分までは遅刻入場可能です。但し、時間の延長はありません。 ●腕時計は、時計機能のみのデジタル時計・アナログ時計に限り、身につけることができます。 ●携帯電話、スマートフォン、通信機能付き時計等は電源を切り、カバンから出さないでください。 ●面接の終了時間は、順番によって変わります。 ●試験中にトイレへ行きたいときは、試験監督に手を上げて申し出てください。但し、試験時間の延長はありません。 ●試験中に体調不良になったときも、試験監督に手を上げて申し出てください。
保護者の方へ
<ul style="list-style-type: none"> ●試験終了後は、当日指定された場所で受験生と合流してお帰りください。 ●駐車場はございません。お車での来校やお迎えはお控えください。公共交通機関でのご来校をお願いします。 ●首都圏の交通機関等が大きく混乱した場合は、東京と神奈川の私立学校との事前協定の通り、入試を全て中止し、終日試験日を繰り下げて実施します。

合否確認

本校HP、ピンクのバナー「合格発表」から合否照会サイトにログインID:受験番号4ケタ、パスワード:生年月日8ケタをご入力の上[ログイン]ボタンをクリックしてください。

- ※ミライコンパス出願サイトのIDとパスワードとは異なりますのでご注意ください。
- ※受験番号の「0」は省略せずに入力してください。
- ※誕生日が1ケタの場合は0を前につけてください。
- ※当日の状況により発表時間が遅れる場合があります。
- ※発表直後はアクセスが集中するため、一時的に接続しづらくなる場合があります。その際には少し時間を置いてから再度アクセスしてください。
- ※お電話でのお問い合わせには一切お答えできません。ご了承ください。

合格発表後の手続き手順



諸費用

入学手続き時	入学金	250,000円
	施設費	125,000円
	小計	375,000円
月額	授業料	55,000円
	施設拡充費	7,000円
	積立金・学年費(預り金)※	16,500円
	小計	78,500円
入学年4月に発生する費用	PTA会費	7,200円
	生徒会費	7,700円
	後援会費	18,400円
	小計	33,300円

聖学院教育振興資金について

入学時に1口100,000円、2口以上にご協力をいただけますと幸いです。(任意)

※積立金・学年費(預り金)について

副教材・模擬試験・文集作成・体験学習(教育旅行等)費・卒業対策費等が含まれます。金額は変更の可能性があります。

GICの卒業生に聞いてみました graduate's voice

1 GICに入ろうと思った理由、きっかけ、魅力に感じたことなどを教えてください



GICでは、高校生のうちから大学レベルのプロジェクト活動ができる点に魅力を感じました。また、自分のやりたいことを手助けしてくれる環境があり、自分でも気づかない強みを発見できたと感じたことが、入学を決めた理由です。【2期生】



カリキュラムの柔軟性に魅力を感じたためです。私はもともと、さまざまなことを実際に体験しながら学ぶ方が好きな性格です。そのため、探究活動と勉強の両方に取り組むことができる環境で多くの経験を積みながら、自分の将来について考えていきたいと思い、GICを選びました。【3期生】

2 STEAMの授業では、どういったことをやりましたか?



STEAM Designでは絵具やレーザーカッターなど様々な技術や道具を使い、切り絵を組み合わせた作品を作りました。グループではこれらの技術を活かしてオリジナルの世界観を指定された空間の中に表現する挑戦的な体験もしました。【2期生】

3 Immersionの授業では、どういったことをやりましたか?



Competencyでは性別や差別など、現在のセンシティブな話題を真剣に議論し、互いに発表し合う授業をしました。教科書のような定型文ではなく、日常的に使用する英語を先生から聞けると面白かったです。【1期生】

4 GICに入って成長を感じたことを教えてください



主体性とそれを実行できる能力です。年間の独自科目で組まれる課題、特にリベラルアーツに関しては考えさせられるものが多く、受動的なマインドで取り組むと納得のいく答えを得ることが出来ませんでした。また、GICの授業は学年を問わずアウトプットの機会が多いので、実行する力がつきました。失敗も成功も挑戦した分だけ自信と行動力になりました。【3期生】

5 どんな社会課題に取り組み、なぜその課題に興味を持ったのですか?



お弁当作りを通して、子育て世代が抱える悩みごとや課題を、子育てに関係する全ての人と一緒に解決していくというワークショップを企画しました。「食」が人と人を繋げるツールになると考え、食べ物を一緒に作ったり、食べたりすることで親子や親同士のコミュニケーションの場を生み出すことを目的として、実際に幼稚園でワークショップを開催しました。【1期生】



まちづくりにおける対話です。私が運営を行った他県でのイベントや自主的に参加した地方創生プロジェクトなどがきっかけとなり、行政、市民、民間企業など多くの方が関わっている「まちづくりでは、各立場を超えた対話が生み出せるのか」という問いが生まれました。進学先の大学でも研究したいと思います。【3期生】

6 将来もしくは今後の予定について教えてください



江戸東京野菜を始めとした地域固有の文化や伝統(地域の独自性)を地域に広めるため、「地域愛」を根付かせるコミュニティの形成と、後世へ繋いでいくことに挑戦したいと思います。【2期生】



将来は、地域と人を繋げることのできる人になりたいです。地域の魅力を楽しみながら散歩も取り組む予定です。【3期生】

Global Innovation Classに関するQ&A

Q 英語力はどれくらい必要ですか?

英検準2級相当以上の英語力があることを推奨しています。ただ、英検3級相当でも本校の英語教育によって、成績は伸びますので、是非チャレンジしてみてください。

Q 思考力入試はどのような内容ですか?

本校では、2013年度入試より、中学入試において思考力入試を行ってまいりました。そのノウハウを応用し、高校入試用の問題を作成しています。出題内容はSDGsや世界で起こっている問題について、自分なりに情報収集をし、課題解決・価値創造を文章表現していく入試となります。面接においては、受験生の賜物(才能・タレント)を発見できるように、解答内容について深掘りするために質問させていただきます。

Q 面接で聞かれることはどんなことですか?

本校への志望動機、本校で学習・活動したいこと、中学での印象的だった経験、自分の強みや好きなことなどを総合的に質問します。上記の思考力入試での解答内容についても質問します。

●入試科目について

[思考力]

聖学院では、「社会課題の自分事化」「思考力・表現力・主体性・協働性」が世界の課題解決には不可欠であると考えています。そのため国数理社を中心に教科の総合的な力を評価するための入試「思考力入試」を実施しています。Global Innovation Classで大切にしたい力を「思考力入試」に取り入れています。

特に、右記の点を評価しています。

- 社会課題を自分事としてとらえる力
 - 情報を読み取る力、聴き取る力
 - 比較・分類する力
 - 自分なりに課題を発見・設定する力
 - アイデアをたくさん出す力
 - 文章として表現する力(作文・プレゼンテーション)
- ※句読点や誤字は減点しません。

[英語(推薦・一般ともに)]

Global Innovation Classでは世界で活躍する人材の育成を目指しています。授業では、英語6時間と「Immersion」3時間、合計9時間を英語で学びます。したがって、英検準2級程度の英語力が必要となるために、入試問題も英検3級～準2級程度のレベルで設定しています。特に、Readingのテーマに対する自由英作文を課しており、自分の英語で表現する力を大切にしています。

※英作文の細かいミスは減点しません。



こちらより過去の入試問題がダウンロードできます。あわせてご確認ください。

システム・操作に関するお問い合わせ先

ミライコンパスサポートセンター

<https://www.mirai-compass.jp.net/nygk/>

Tel 0120-907-867 Tel 03-5877-5952 [24時間受付]

お問合せ対象の ①コード:(0196) 聖学院高等学校 ②氏名 を伝えてください。

説明会情報

6月13日(土)	学校説明会・体験会②
7月11日(土)	学校説明会・体験会③ レゴキング選手権
7月25日(土)	オンライン学校説明会①
8月22日(土)	学校説明会・体験会④
9月5日(土)	高校 オンライン学校説明会①
9月19日(土)	学校説明会・体験会⑤
10月3日(土)	校内見学会①
11月7日(土)	校内見学会②
10月17日(土)	帰国生オンライン入試説明会③
10月24日(土)	学校説明会・体験会⑥ 高校 オンライン学校説明会②
11月18日(水)	オンライン学校説明会②
11月28日(土)	入試対策説明会①
12月19日(土)	入試対策説明会②
1月16日(土)	入試対策説明会③
3月27日(土)	学校説明会・体験会⑦

※赤文字は高校入試相談があります。
※開催内容を変更する場合がございます。
詳細はホームページをご確認ください。



●access

- JR山手線 駒込駅 東口 徒歩5分
- 東京メトロ南北線 駒込駅 3出口 徒歩7分
- JR京東北線 上中里駅 徒歩14分



聖学院 中学校
高等学校

お問い合わせ先 入試広報部
Tel 03-3917-1121 (代表)
(月～土 9:00～16:00)

<https://www.seigakuin.ed.jp/>
〒114-8502 東京都北区中里3-12-1
Fax 03-3917-1438

